2月号 2012.02.03
株式会社リビングくらしHOW研究所
TEL03-5216-9420
http://www.kurashihow.co.jp

Monthly くらしHOW

女ゴコロと消費がわかる

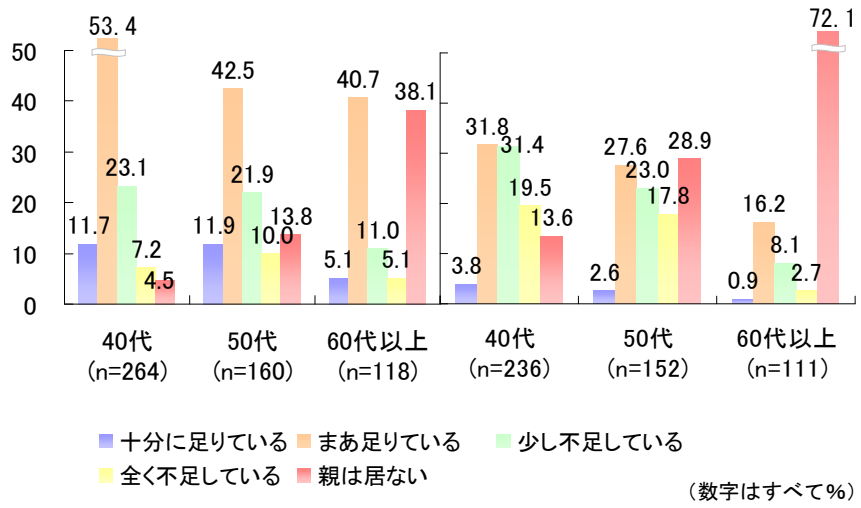
1月中にUPした最新データ
家庭の食生活・メニュー／家族が揃う夕食ほか

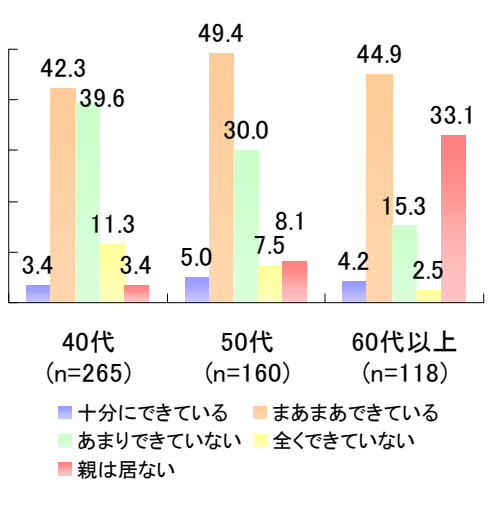
くらしHOW 検索

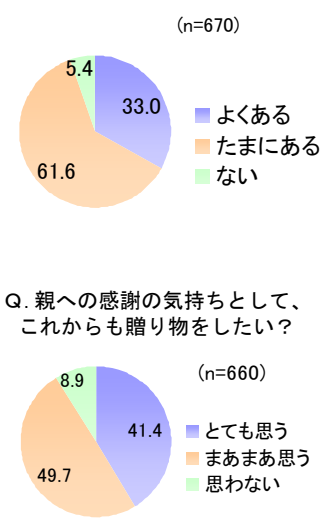
01 Woman's Voice

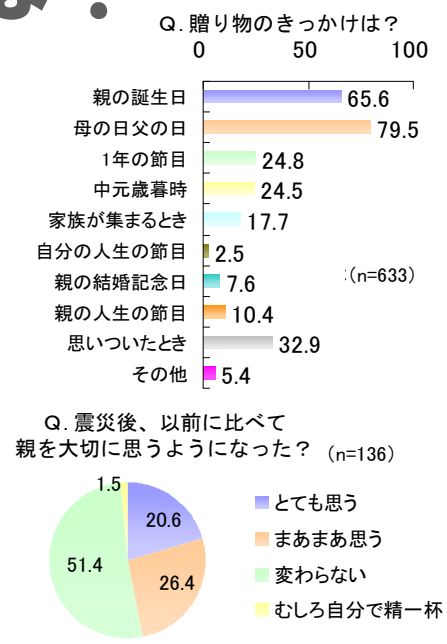
親の老後、自分の老後を考える～vol.4～

親子コミュニケーションはまあまあ、親孝行は？









「親の老後、自分の老後」シリーズ第４回は親孝行の意識を探った。まず親とのコミュニケーションについて、自分の親とはどの年代も半数前後が足りているとするが、夫の親となると3割にダウン。年代が若いほど足りていると思う人が多いのは、「孫」が話題になるかどうかが影響しているのだろう。

親孝行は、どの年代も半数近くができていると思っている。注目すべきはコミュニケーション不足を感じている人の割合より、親孝行ができていないとする方が多いこと。特に40～50代で、コミュニケーションはまあまあでも親孝行はできていないと思っている人が多い。できていないと思っている人に、何があればもっと孝行できるか聞いたら「時間」「お金」「思いやり」の3拍子が揃った。

親へのプレゼントは年代が上がるにつれてよくする人が増え、全体では95%が何らか贈り物をしている。きっかけは父の日母の日、誕生日に次いで「思いついたとき」。これも年代が上がるにつれて思いついたときにプレゼント、という人が増える。50代を超えてくると親は80歳近く。頼る存在から護る存在に変わり、記念日的なきっかけよりは季節や流行など話題となるきっかけがあれば「贈る」下地はいつでもできているのだろう。これからも贈り物をしたいとするのは9割、「とても思う」は若い世代ほど多い。

震災後、家族の絆の再認識が言われるが、親を大切に思うようになった人と変わらない人は半々。これも若い世代ほど「とても思う」人が増える。親を護る年頃になると複雑なのだろう。

所長の目

今回の調査のFAで、親孝行したいが何をしたらいいか分からない、という人が結構多かったのが印象的だ。 これはほとんどの人が、一番いいのは一緒に過ごすことだと分かっていながら出来ないからだろう。親たちはモノは充分に持っているし経済的にも子世代よりはよほどゆとりがある。だからプレゼントも、一緒に食事とか旅行といった「楽しく過ごす時間」が最も喜ばれる、寂しさや心細さの解消支援が必要なんだと重々承知している。が出来ない。自分の生活でいっぱいだから。でも、もう少し努力してもいいのでは？と悶々とする。

子世代のこの後ろめたさを少しでも解消してくれるアプローチが重要だ。（植田奈保子）

※2011. 11/10～13調査。全国の既婚女性682人回答
詳細はくらしHOWへ問い合わせを

Real Voice 親との会話を増やすには？

◆スカイプなどの無料通話があれば増えそう（40歳／大阪） ◆義父母と携帯電話が無料通話になれば話す機会が増えるかも。実父母とはそれですごく増えました（40歳／千葉） ◆テレビ電話など高齢者でも関心を持って取り組めるような通信手段があればいいと思う。但し操作が簡単なことが条件（51歳／埼玉） ◆休日が増えればコミュニケーションも増やせる（49歳／兵庫） ◆一緒にヨガや体操などを習う（46歳／愛媛） ◆孫の行事などを頻繁に報告する（41歳／大阪） ◆こちらから親に会いに行く回数を増やすこと。電話は、耳が遠くなってきたので使えなくなっているし･･･（56歳／東京）

02 HOW's View

本当の力を身につけたい女子 不安もあせりも、一歩踏み出せば解消

かつて結婚や妊娠で退職したアラフォー世代は、「若いころもっとがんばっておけばよかった」「資格があるけど面白味がないから違う仕事がいい」と、「これから」を考えてあせっている。既婚者に限ったことではない。正社員、派遣など待遇は違っていても、5年後10年後が思い描けないシングル。40歳を目前にして「中途半端な仕事でいいのか」「資格があっても、次々と若い人に変わられてしまうのでは」「社内にはグラスシーリングがある」と不安を募らせる。

昨年の3.11以降のLETS（リビング・エディターズ・トレーニング・システム）受講希望者や、大学の社会人向け講座の受講者の話から、時代の気分とでもいうものを感じる。

趣味や教養でなく、本当に力になるものを身につけ、それを発信できるようにしたいのだ。

一方で、LETS修了生が加入しているリビングライターズ倶楽部。情報収集と勉強の機会を提供しているが、昨年来、国際経済（とりわけ中国、インド）、IT企業、健康食品や化粧品メーカーなど、事前知識が必要な記事制作の要請も目立つ。専門誌でなくても深い理解がなければ太刀打ちできないのだ。勉強している女性ライターの活躍の場が広がっている。力がつけば不安は解消。

いつでも爪をといで、障壁を越える用意をしていよう、と応援している。
（LETS代表　外山由紀代）

20代から50代が楽しく競いながら学んでいる。LETSは10期生を募集
seminar.kurashihow.co.jp/lets

03 Group Eyes

内食、時短、ヘルシーが3大キーワード 「第18回助かりました大賞」発表

主婦が助かったと思う商品・サービスを選び大賞を決定するリビング新聞「助かりました大賞」第18回の結果が発表になった。食品部門では金賞「ジュレ状ぽん酢」、銀賞「レンジでチンするから揚げ粉」、銅賞「アサヒダブルゼロカクテル」。家庭用品部門ではライスブレッドクッカー「GOPAN」（ゴパン）が金賞に輝いた。

2012年2月4日付、首都圏版リビング新聞紙面

「入賞した商品を見ると、楽はしたいけれど、手抜きに見られるのは嫌という主婦の本音が浮き彫りになってきます。この傾向は過去18年変わらないですね。目先が変わっておしゃれに見えるとか、便利でしかもおいしいものでないと入賞しません」と担当の編集部鈴木佳代子は言う。

「時間がない朝からお弁当用のから揚げができるのがいい」「ノンアルコールカクテルのお蔭で一人で寂しそうに飲んでいる夫の晩酌に付き合えるのがうれしい」「ヘルシーでカロリーが気になる私にぴったり」など、読者の声から、内食が進み、時短、ヘルシーというキーワードの商品が支持されていることが見えてくる。「家事時間を短くし、家族といる時間を大事にしたいというのは主婦の永遠のテーマではないでしょうか」と鈴木。ぜひ今年の「助かりました大賞」の結果に注目してほしい。
（岸野順子／リビング新聞グループコーポレートコミュニケーション室室長）

くらしHOW 検索 女性データ800件フリー検索！＆主婦の生声ネット座談会公開中！